

尋常小學唱歌

第三學年用

文部省

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak

40349

教科書文庫

4
760
31-1912
01304 49404

中央図書館

広島大学図書

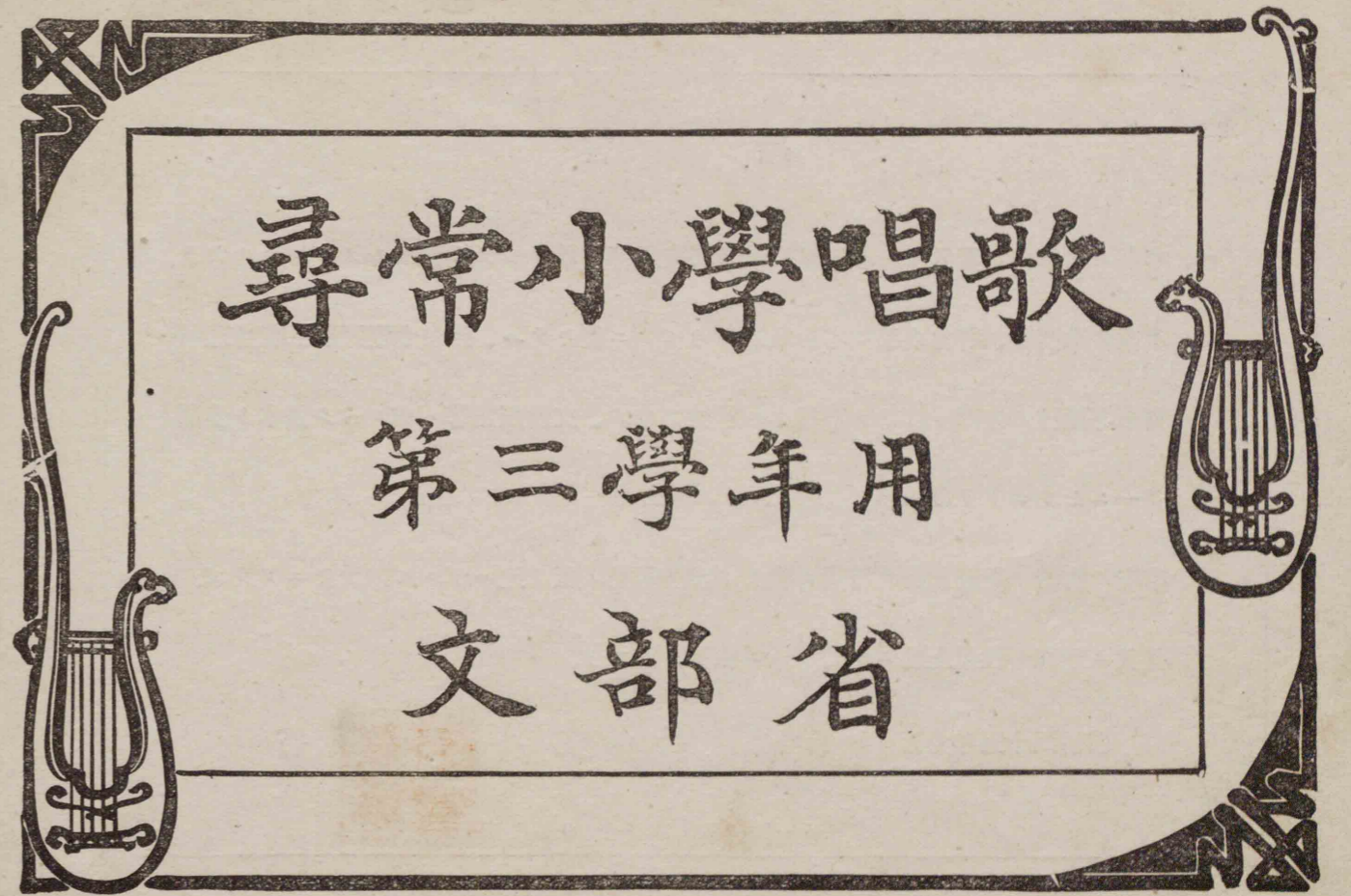
0130449404



尋常小學唱歌

第三學年用

文部省



緒 言

一、本書ハ本省内ニ設置セル小學校唱歌教科書編纂委員ヲシテ編纂セシメタルモノナリ。

二、本書ノ歌詞中、尋常小學讀本所載以外ノモノニ就キテハ、修身・國語・歴史・地理・理科・實業等諸種ノ方面ニ涉リテ適當ナル題材ヲ求メ、文體用語等ハ成ルベク讀本ト歩調ヲ一ニセンコトヲ期セリ。

三、本書ノ曲譜ハ排列上其ノ程度ニ就キテ多少難易ノ順ヲ追ハザルモノナキニアラズ。是其ノ歌詞ノ性質上已ムヲ得ザルニ出デタルナリ。

明治四十五年七月

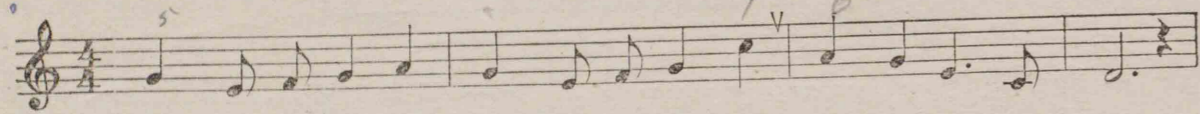
文 部 省

目 次

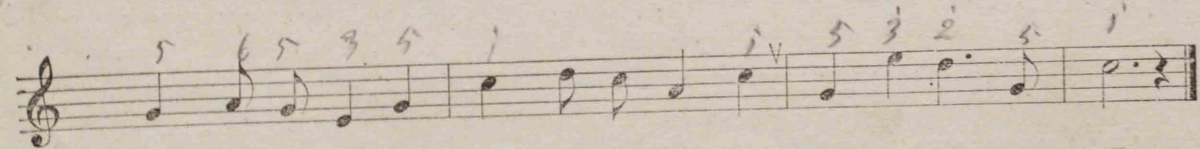
① 一 春が来た2	一一 日本の國..... 22 目
二 かがやく光4	一二 雁 26 次
三 茶 摘.....6	一三 取入れ28
四 青 葉.....8	一四 豊臣秀吉.....30
五 友だち10	一五 皇后陛下.....32
六 汽 車.....12	一六 冬の夜34
七 虹14	一七 川中島36
八 蟲の聲16	一八 おもひやり38
九 村 祭18	一九 港40 一
② 一〇 鶉 越20	二〇 かぞへうた44

春が来た

♩=120



一 ハ ル ガ キ タ ハ ル ガ キ タ ド コ ニ キ タ
 二 は な が さ く は な が さ く ど こ に さ く
 三 ト リ ガ ナ ク ト リ ガ ナ ク ド コ デ ナ ク



ヤ マ ニ キ タ サ ト ニ キ タ ノ ニ モ キ タ
 や ま に さ く さ と と に さ く の に も さ く
 ヤ マ デ ナ ク サ ト デ ナ ク ノ デ モ ナ ク

春が来た

二

春が来た

三

一、春が来た

一、春が来た、春が来た、どこに来た。
 山に來た、里に來た、

野にも來た。

二、花が咲く、花が咲く、どこに咲く。

山に咲く、里に咲く、

野にも咲く。

三、鳥が鳴く、鳥が鳴く、どこで鳴く。

山で鳴く、里で鳴く、

野でも鳴く。

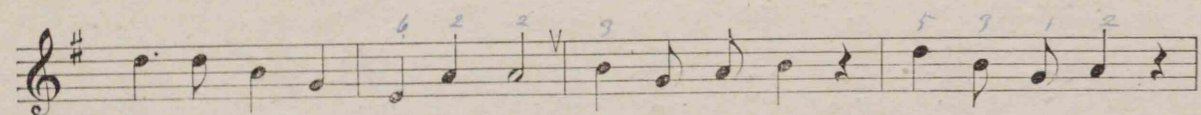
(尋常小學讀本卷五所載)

かがやく光

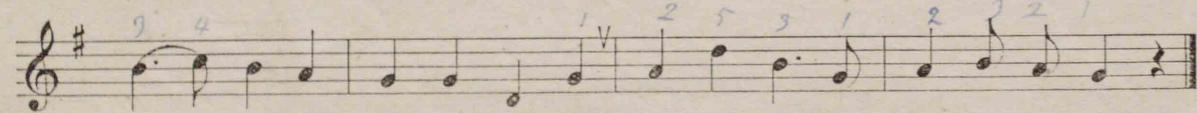
♩=104



一 ミユミノハズニキニイロノトビ
二 むかしのひかりいまでもそのま



カガヤクヒカリキラキラピカピカ
むねのくんしやうきらきらびかびか



マナコクランデニゲユクワルモノ
ほまれかがやくにつぼんぐんじん

かがやく光

四

かがやく光

五

二、かがやく光

一、御弓の弭に

金色の鵒

かがやく光

きらくびかく。

眼くらんで

逃行くわるもの。

二、昔の光

今もそのまま、

むねの勳章

きらくびかく。

譽かがやく

日本軍人。

茶 摘

♩ = 104

一 ナ ツ モ チ カ ヅ ク ハ チ ジ フ ハ チ ヤ
 二 ひ よ り つ づ き の け ふ こ の ご ろ を
 ノ ニ モ ヤ マ ニ モ ワ カ バ ガ シ ゲ ル
 こ こ ろ の ど か に つ み つ つ う た ふ
 ア レ ニ ミ エ ル ハ チ ヤ ツ ミ デ ヤ ナ イ カ
 つ め よ つ め つ め つ ま ね ば な ら ぬ
 ア カ ネ ダ ス キ ニ ス ゲ ノ カ サ
 つ ま に や に ほ ん の ち や に な ら ぬ

茶 摘

七

三、茶 摘

一、夏も近づく八十八夜、

野にも山にも若葉が茂る。

「あれに見えるは茶摘ぢやないか。

あかねだすきに菅の笠。」

二、日和つゞきの今日此頃を

心のどかに摘みつゝ歌ふ。

「摘めよ摘め摘め摘まねばならぬ。

摘まにや日本の茶にならぬ。」

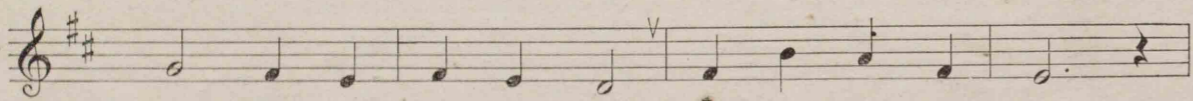
青 葉

♩ = 100

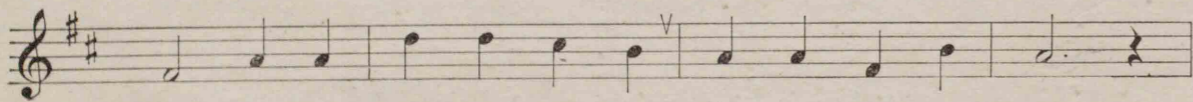
音 葉



一 ア メ ガ ヤ ム ク モ ガ チ ル
二 か せ が ふ く き が ゆ れ る

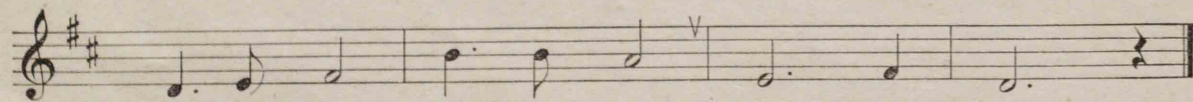


ク モ ノ ア ト ニ ヲ ネ ウ ネ ト
き ぎ の か げ は ゆ ら ゆ ら と



ア マ バ ワ カ バ ノ ヤ マ ヤ マ ガ
み づ の お も て に ち の う へ に

八



ト ホ ク チ カ ク ノ コ ル
あ を く く ろ く う つ る

一、雨^{あめ}が歌^やむ、雲^{くも}が散^ちる。

雲^{くも}のあとにうねくと、

青^{あお}葉^は若^{わか}葉^はの山^{やま}々^々が

遠^{とほ}く近^{ちか}く残^{のこ}る。

二、風^{かぜ}が吹^ふく、木^きが揺^ゆれる。

木^き々の影^{かげ}はゆらくと、

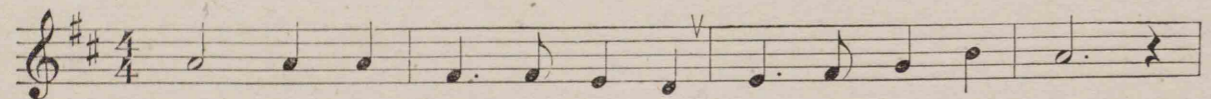
水^{みづ}の面^{おもて}に地^ちの上^{うへ}に、

青^{あお}く黒^{くろ}く映^{うつ}る。

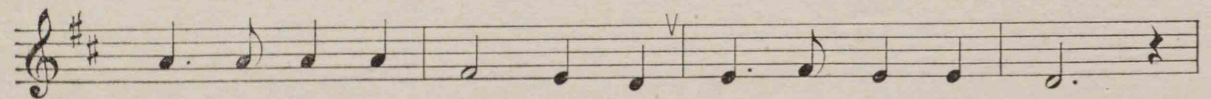
♩=100

友 だ ち

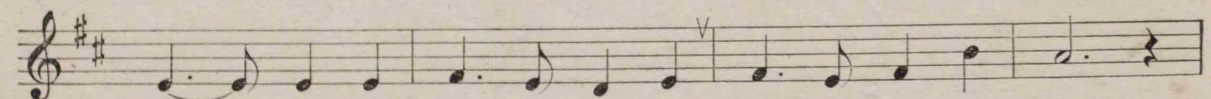
友
だ
ち



一 コ ノ テ ガ シ ハ ノ ウ ラ オ モ テ
二 い ろ も か も し る き み な ら で

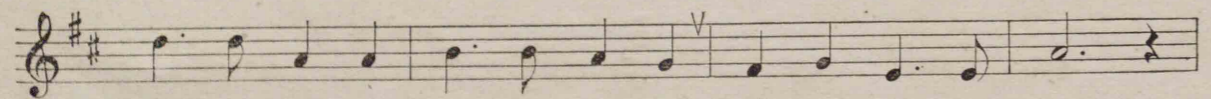


カ ハ ラ ス ヒ ト フ ト モ ト セ ヨ
た れ に か み せ ん う め の は な



コ レ ゾ ヨ キ ヒ ト ヨ キ ト モ ト
こ こ ろ の と も は か く こ そ と

一〇



フ シ ヘ シ ム カ シ ノ コ ト ノ ハ フ



ワ ス ル ナ ヨ ワ ス ル ナ ヨ

友
だ
ち

五、友 だ ち

一、このてがしはの裏表

かはらぬ人を友とせよ。

これぞよき人よき友と

教へし昔のことはを

忘るなよく。

二、色も香も知る君ならで

誰にか見せん梅の花、

心の友はかくこそと

教へし昔のことはを

忘るなよく。

二

六 汽 車

一、今は山中、今は濱

今は鐵橋渡るぞと

思ふ間も無く、トンネルの

闇を通つて廣野原。

二、遠くに見える村の屋根、

近くに見える町の軒。

森や林や田や畑、

後へくと飛んで行く。

三、廻り燈籠の畫の様に

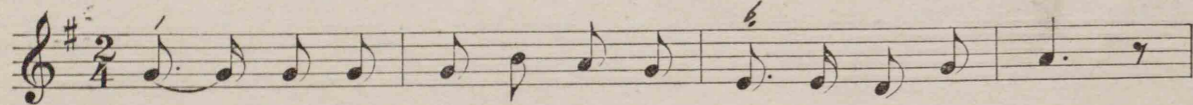
變る景色のおもしろさ。

見とれてそれと知らぬ間に、

早くも過ぎる幾十里。

汽 車

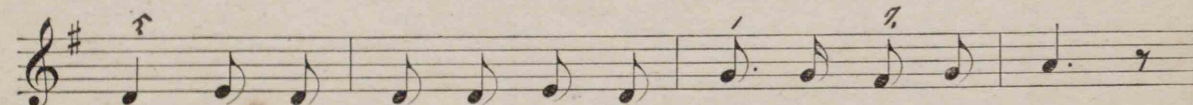
♩=92



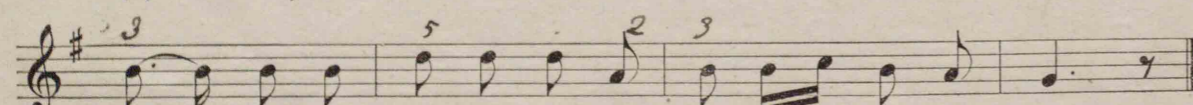
マねニ ハやウ ハのヤ マらノ イむエ カるノ ナえウ マーウ ヤみド ハにリ マくハ 一ほニ イとマ



トキサ ズのロ ルのシ 一 一 タちモ ワまオ ウるノ ケえキ ツーシ テみケ ハにル マくハ 一か一 イちカ



ノけニ ルたま ネはヌ ンやラ トたシ クヤト ナしレ モや一 マはソ フヤテ モリレ オもミト



ラクリ ハイフ ノでジ 一 一 ロんク ヒとイ テとル ツヘギ ホと一 トあス ヲヘモ ミとク 一ヤ ヤあハ

虹

♩=72

虹

ニ ジ ガ デ タ ニ ジ ガ デ タ
 ニ に じ が で た に じ が で た

ソ ラ フ イ シ ャ ッ ニ ミ タ テ タ ラ
 そ ら を い ち め ん み づ と み て

ナ ナ ッ ノ イ ロ ニ ソ メ ワ ケ タ
 さ ん じ ゃ る り を ち り ば め た

ダ ン ダ ラ モ ヤ ウ ハ デ モ ヤ ウ
 て ん に よ の は し よ た ま の は し

一四

七、虹

一、虹が出た。

虹が出た。

空を衣裳に見立てたら、

七つの色に染分けた

だんだら模様はて模様。

二、虹が出た。

虹が出た。

空を一面水と見て、

珊瑚や瑠璃をちりばめた

天女の橋よ玉の橋。

八、蟲のこゑ

一、あれ松蟲が鳴いてゐる。

ちんちろく　ちんちろりん。

あれ鈴蟲も鳴き出した。

りんく　りんりん。

あきの夜長を鳴き通す

あ、おもしろい蟲のこゑ。

二、きりく　きりぎりす。

がちゃく　くつわ蟲

あとから馬おひおひついて

ちよんく　すいつちよん。

秋の夜長を鳴き通す

あ、おもしろい蟲のこゑ。

(尋常小學讀本卷五所載)

蟲のこゑ

♩=80

一 アレマツムシガ ナイテキル チンチロチンチロ
 二 きりぎりぎりぎり きりぎりす がちやがちやがちやがちや
 三 ちんちろりん アレスズムシモ ナキダシク
 四 くつわむし あとから うまおひ おひついて
 五 リンリンリンリン リインリン アキノヨナガヲ
 六 ちんちんちんちん すいつちよん あきのよながを
 七 ナキトホス アアオモシロイムシノコゑ
 八 なきとほす ああおもしろいむしのこゑ

九、村 祭

一、村の鎮守の神様の

今日(けふ)はめでたい御祭日(おまつりび)。

どんくひやらら、どんひやらら、

朝(あさ)から聞(き)える笛太鼓(ふえたいこ)。

二、年も豊年満作(ほうねんまんさく)で、

村(むら)は總出(そうしゅつ)の大祭(おほいまつり)。

どんくひやらら、どんひやらら、

夜(よ)まで賑(にぎ)ふ宮(みや)の森(もり)。

三、治(をま)まる御代(みよ)に神様(かみさま)の

めぐみ仰(あや)ぐや村祭(むらまつり)。

どんくひやらら、どんひやらら、

聞(き)いても心(こころ)が勇(いさ)み立(た)つ。

村 祭

♩=84

村 祭

ムとラノテンジュノカミンサマクノ
 ラサシもほウユねんまかみんみささくで
 ケフハメデタイオマツツビ
 めむらはめそデアグヤのほらまママ
 ドンドンヒヤララ ドンヒヤララ ドンドンヒヤララ ドンヒヤララ

アよサカラキコエルフみエタイもコ
 キイサマデニコハガミイササミタ
 キイサマデニコハガミイササミタ

一〇、鶴越

一、鹿も四足、馬も四つ足、この坂路、道理はないと、眞先に。

二、つづく勇士も、鶴越に、着いて見れば、眞下に見えて、眞最中。

三、油断大敵、裏の山より、さか落しに、驚きあわて、落ちてゆく。

平家の陣屋は、戦今や、屋島をさして

鶴越

♩=120

シんリ アセヨ ツラマ ヨたヤ モキノ マツラ ウイウ シもキ アシテ ツライ ヨヨダ モクン カづダ シツユ

チばニ 一れ一 ミみシ カてト サいオ ノ一カ コつサ シにノ エえキ エこヨ コリン ノドゼ カよシ シひサ

トてテ イえワ ナミア ハにキ リたロ ウしド ダまオ はン いやモ ナんチ セちイ コのノ ノけケ マいイ ウへへ

ニゆうク キいユ サさテ ツつチ マまオ ネやテ ツまし シ一 ヨいサ ウひヲ シカマ イたシ タたヤ

日本の國

♩=100

日本の國

Musical staff with notes and fingerings (1 2 3 2 2 5 3 2 1 2 3)

ニホンノクニハ マツノクニ
にほんのくには はなのくに

Musical staff with notes and fingerings (1 1 2 3 2 2 5 3 3 2 3 1)

ミアゲルミネノ ヒトツマツ
うめももさくら ふちあやめ

Musical staff with notes and fingerings (2 3 2 3 2 5 6 7 6 6 5)

ハマベハツヅク マツ バラノ
しらつゆむすぶあきのの

三

Musical staff with notes and fingerings (1 1 5 3 2 6 6 5 5 2 3 1)

エダブリスベテ オモシロヤ
ちぐさの はなも おもしろや

Musical staff with notes and fingerings (1 2 3 4 3 2 3 4 5 6 6)

ワケテ ナニオフ マツシマノ
わけて さくらの よしのやま

Musical staff with notes and fingerings (1 1 5 5 6 6 3 4 3 2 1)

オホシマ コジマ ツノナカヲ
ひとめせんぼん さきみちて

Musical staff with notes and fingerings (5 6 7 1 5 3 2 3 4 3 2 1)

カヨフ シラホノウツークシヤ
かすみかくもかうつくしや

日本の國

三

一、日本の国

一、日本の国は松の国。

見上げる峯の一つ松、

はまべはつづく松原の

枝ぶりすべておもしろや。

わけて名におふ松島の

大島小島、その中を

通ふ白帆の美しや。

二、日本の国は花の国。

梅桃櫻藤菖蒲、

白つゆむすぶ秋の野の

ちぐさの花もおもしろや、

わけてさくらの吉野山、

一目千本咲きみちて、

かすみか雲か美しや。

〔尋常小學讀本卷六所載〕

雁

♩=104

雁

一 カ リ ガ ワ タ ル ナ イ テ ワ タ ル
二 か り が お り る つ れ て お り る

ナ ク ハ ナ ゲ キ カ ヨ ロ コ ビ カ
つ れ は お や こ か と も だ ち か

ツ キ ノ サ ヤ カ ナ ア キ ノ ヨ ニ
し も の ま し ろ な あ き の た に

サ フ ニ ナ リ カ ギ ニ ナ リ
じ つ ま し く つ れ だ ち て

ワ タ ル カ リ オ モ シ ロ ヤ
お り る か り お も し ろ や

一、雁

雁がわたる。

鳴いてわたる。

鳴くはなげきか喜か。

月のさやかな秋の夜に、

棹になりかぎになり

わたる雁、おもしろや。

二、雁

雁がおりる。

連は親子か友だちか。

霜の眞白な秋の田に、

睦ましくつれだちて

おりる雁、おもしろや。

取 入 れ

♩=116

取
入
れ

ハルノタガヤシスキナラシ
 ひよりのつぐみきふ
 アゼノコミチノトヤスミ
 ナツウエツケタサト
 ろしシタおエツコハあにッとおカ
 ナハナシタノタエツコハあにッとおカ
 ホカヤ一ツガミテヲたメシバタマねクハほツタシミラテアキニクル
 ホミトニるリホマイガにレサツドイもキタルノイもタネミノノシデヤサキマヨ

二八

ホウネンヂヤマンサクヂヤ
 一 二 一 二 一 二 一 二 一 二 一 二

取
入
れ

二九

一三、取 入 れ

一、春のたがやし鋤きならし、

夏の植付田草取、

骨身惜しまぬ働に

穂に穂がさいた稲の出来。

豊年ぢや満作ぢや。

二、日和つづきの昨日今日、

揃うた親子兄弟。

刈つて束ねて干して扱く。

見る間に積る粃の山。

豊年ぢや満作ぢや。

三、畦の小路の一体

咄の種は俵敷。

やがてめでたく積上げる

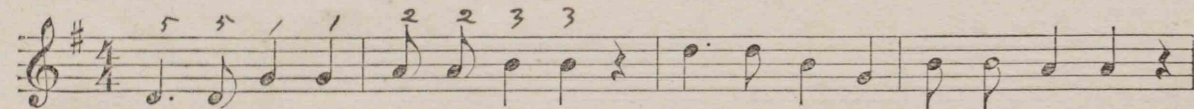
取入れ時の樂しさよ。

豊年ぢや満作ぢや。

豊臣秀吉

♩=104

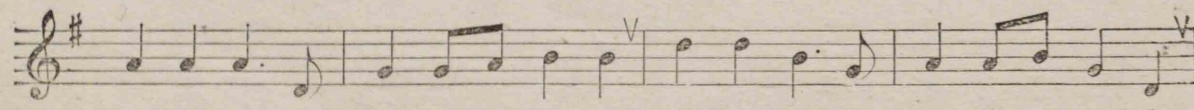
豊臣秀吉



一 ヒヤクネン コノカタ ミダレシ テンカモ
二 よりよく をもちひて てうせ んせむ れば

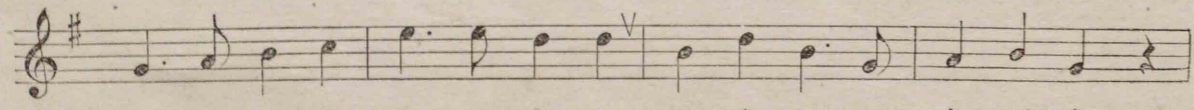


センナリ ベウタン ヒトタビ イヅレバ
はちだう みるまに わがてに やぶられ

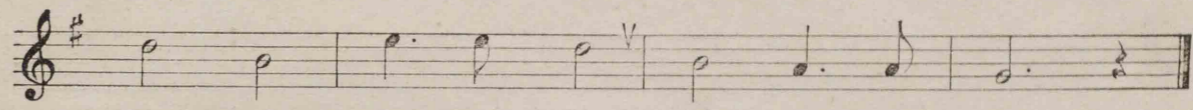


シカイノ ナミカゼ タチマチ ヲサマリテ
こくくわう かがーや ぎこーく むあがーりて

三〇



ロクジフ ヨシウ ハクサキ モキ ナビク
しーひやく よしう もをののき ふるふ



ア ア タ イ カフ ホウ タ イ カフ

豊臣秀吉

一四、豊臣秀吉

三一

一、百年このかた、亂れし天下も、

千なり瓢箪 一たび出づれば、

四海の波風 忽ち治り、

六十餘州は 草木も靡く、

あゝ、太閤 豊太閤。

二、餘力を用ひて 朝鮮攻むれば、

八道見る間に 我が手に破られ、

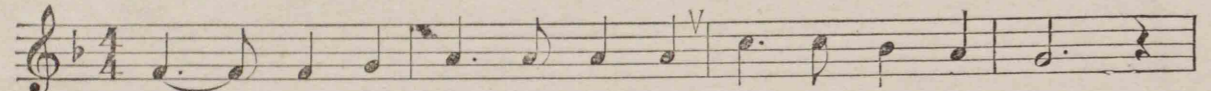
國光かがやき 國威あがりて、

四百餘州も 戦き震ふ。

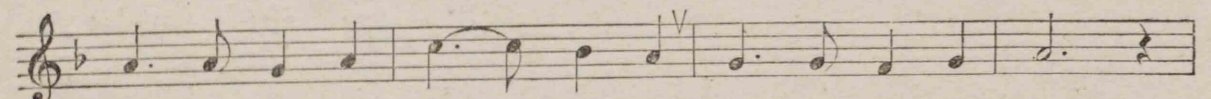
あゝ、太閤 豊太閤。

皇后陛下

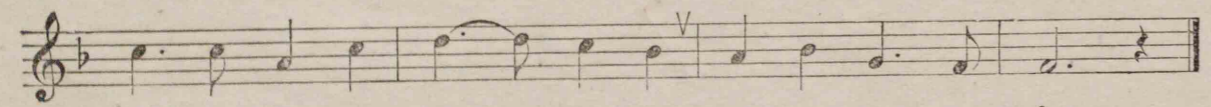
♩=84



クすきく トはナな ゴほモま ルるデえ アうソた ツクンの ゲねハリ ツまホー ジあオは ニどサの ンくムい ー ー ー テコサと



ヲのトを リみハし カぐハと ヒめんさ ミみオみ スリモの マたミめ ー ー ー イにタは テもノを ビにシぎ ラめヅー ナあマわ



キクルや ヤなミめ ミもギれ ホさフす オくアむ キぬモも からドラ ー ー ー タかケこ モのコの グゆシビ フー ー な アつかま

皇后陛下

三二

一五、皇后陛下

皇后陛下

三三

一、天に日月ある如く

並びています 御光を

仰ぐもたかき 大宮居

二、國土あまねく うるほはす

雨にも似たり、 御恵の

露のか、らぬ 草もなく。

三、寒さおほはん 袖も無き

貧しの民も おん母と、

畏けれども 仰ぎ見る。

四、時計の針の 絶間なく

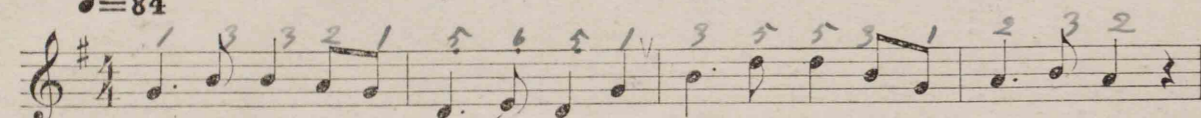
業をはげめの 御さとしを、

學びの子等も 忘れめや。

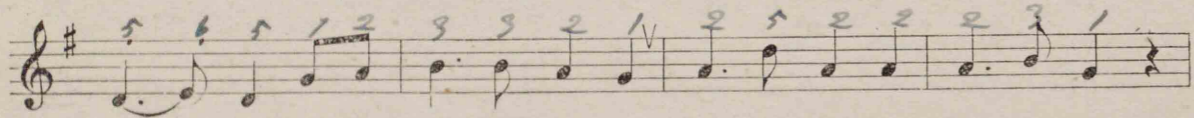
冬の夜

♩=84

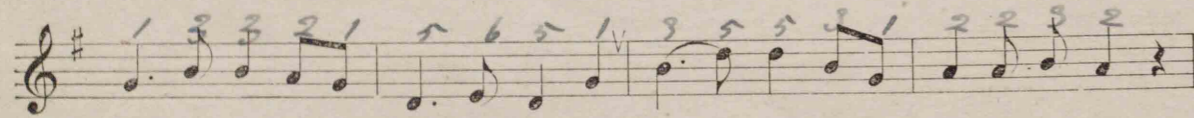
冬の夜



一 トモシビーチーカクキヌフーハハハ
二 ゐろりのーはーたになはなふーちちは

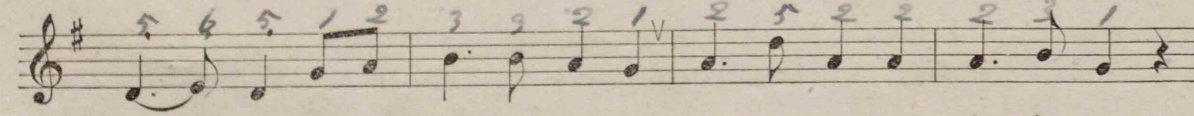


ハールノーアソビノタノシサカタル
すーぎしーいくさのてがらをかたる

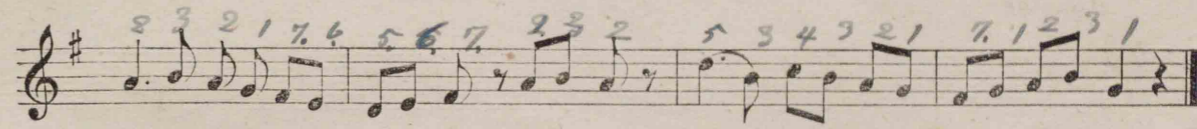


キナラブーコドモハユービヲーヲリツツ
ゐならぶーこどもはねーむさーわすれて

三四



ヒーカズーカゾヘテヨロコビイサム
みーみをーかたむけこぶしをにぎる



冬の夜

キロリビハートーロ ーロ ソートーハーフーブーキ

一六、冬の夜

一、燈火ちかく衣縫ふ母は

春の遊の樂しさ語る。

居並ぶ子どもは指を折りつゝ、

日數かぞへて喜び勇む。

圍爐裏火はとろく

外は吹雪。

二、圍爐裏のはたに繩なふ父は

過ぎしいくさの手柄を語る。

居並ぶ子どもはねむさ忘れて

耳を傾けこぶしを握る。

圍爐裏火はとろく

外は吹雪。

三五

一七、川中島

一、千曲犀川二川の間、

甲越二軍の戦場ここか。

海津の城跡僅に残り

見渡す限り桑畑しげる。

二、川の瀬音は人馬の聲か。

亂るるすすきは旗指物か。

昔の英雄今はた在らず、

記念は野べに苔むす墓石。

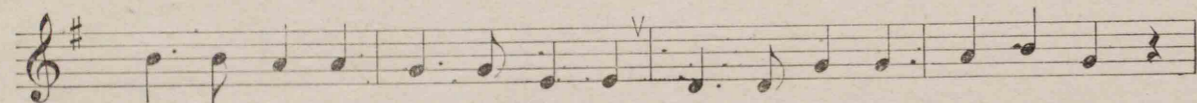
川中島

♩=104

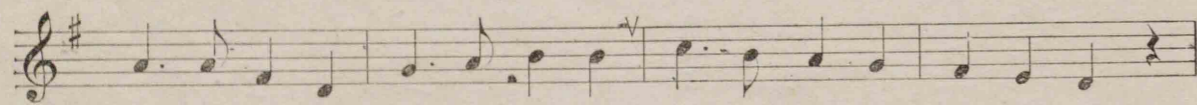
川中島



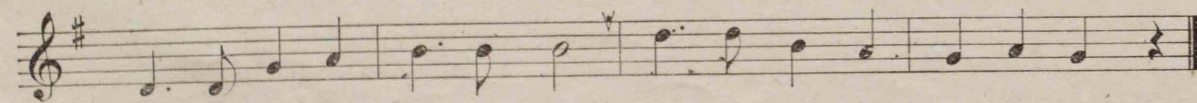
一 チクマ サイガハ ニセンノ アヒダ
二 かはのせおとはじんばのこゑか



カフエツニグンノセンドヤウ ココカ
みだるるすすきははたさしものか



カイヅノシロアトワヅカニノヨリ
むかしのえいゆういまはたあらず

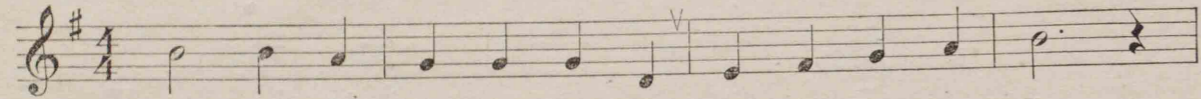


ミワタスカギリクハバタシゲル
かたみはのべにこけむすぼせき

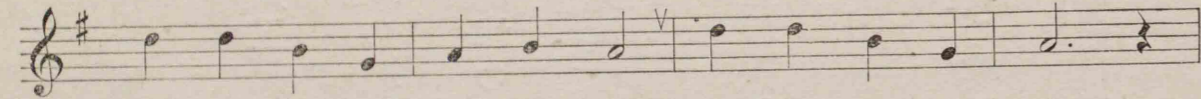
三六

おもひやり

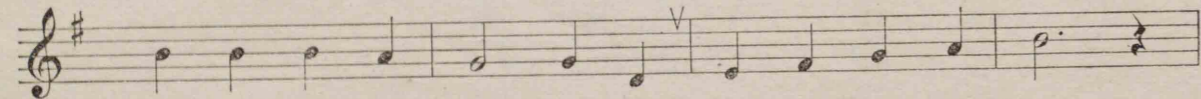
♩=88



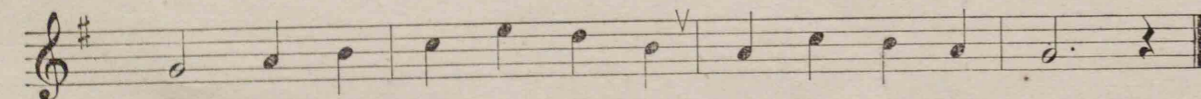
一 ヨソノカナシミクルシミヲ
二 わがみばかりをおもはずに



ワガミノウヘニヒキクラベ
ひーとのみのうへおもひやれ



アハレトオモフココロコソ
きままにひとりふるまはば



ヒトノタフトキユエトシレ
なさりしらすとそしられん

おもひやり

三八

おもひやり

三九

一八、おもひやり

一、よその悲しみ苦しみを

わが身の上ひき較べ

あはれと思ふ心こそ、

人の尊き故と知れ。

二、わが身ばかりを思はずに、

人の身の上思ひやれ。

氣儘にひとり振舞はば、

情知らずと謗られん。

港

♩=66

港

一 コ ー コ ハ ミ ナ ト カ ハ ト バ ノ ア タ リ
 二 か ろ げ に う ー か ぶ こ な た の し や う せん
 三 キ ー ケ ヤ イ リ フ ネ キ テ キ ヲ ナ ラ ス
 四 ふ ー ね の で い り の い よ い よ し げ く

オ ホ プ ネ コ ブ ネ ソ ノ カ ズ イ ノ ツ
 ヨ ー る ぐ さ ま な き か な た の ぐ ん かん
 イ ズ レ ノ ク ニ ヨ リ コ コ ヘ ハ ツ キ シ
 ひ ー び に さ か ゆ る み な と の さ ま よ

港

ナ ラ ブ ホ バ シ ラ ハ ヤ シ ヲ ナ シ テ
 つ づ く あ ひ だ を ぬ ひ つ つ は し る
 ミ ヨ ヤ デ フ ネ ハ ケ ム リ ヲ ハ イ テ
 く に の ふ き や う の ま し ゆ く し る し

ツ ド ヘ ル サ マ ノ ニ ギ ー ハ シ ヤ
 こ じ よ う き は し け い そ ー が し や
 パ ン リ モ ユ は ク カ イ サ ー マ し ヤ
 お も ヘ ば げ に も た の ー も し や

一九、港

一、ここは港か波止場のあたり、
 大船小船其の數いくつ。
 列ぶ檣林をなして
 集へる様の賑しや。

二、輕げに浮ぶ此方の商船、

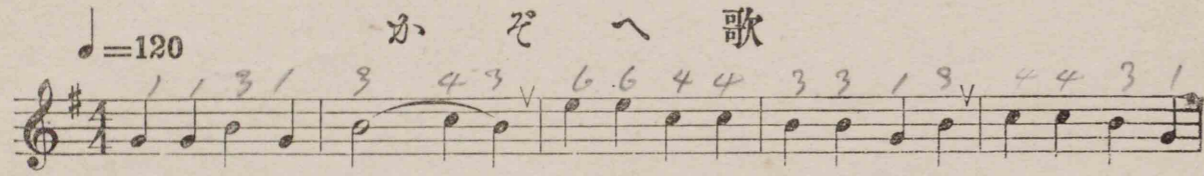
ゆるぐ様なき彼方の軍艦。
 つゞく間を縫ひつゝ走る
 小蒸氣艇忙しや。

三、聞けや入船汽笛をならす。

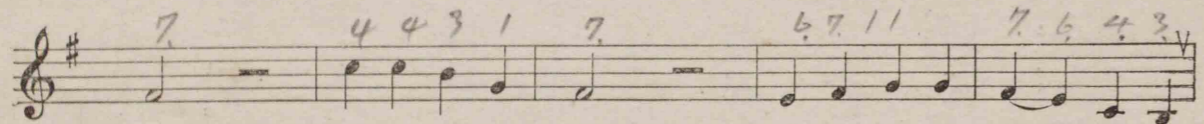
何れの國よりこゝへは着きし。
 見よや出船は烟を吐いて
 萬里もゆくか勇ましや。

四、船の出入のいよいよ繁く、

日々に榮ゆる港の様よ。
 國の富強の増しゆくしるし、
 思へばげにも頼もしや。



一 ヒ ト ツ ト ヤ ー ー ヒ ト ビ ト チ ユ ウ ギ ヲ ダ イ イ チ
二 ふ た つ と ヤ ー ー ふ た り の お や ご を た い せ つ



ニ ダ イ イ チ ニ ア フ ゲ ヤ タ ー カ キ
に た い せ つ に お も へ や ふ ー か き



キ ミ ノ オ ン ー ー ク ニ ノ オ ン
ち ち の あ い ー ー は は の あ い

二〇、かぞへ歌

一つとや、人々忠義を第一に
 二つとや、あふげや高き君の恩國の恩
 三つとや、二人のおや御を大切に
 四つとや、思へやふかき父の愛母の愛
 五つとや、みきは一つの枝と枝
 六つとや、仲よく暮せよ兄弟姉妹
 七つとや、善き事がひにすゝめあひ
 八つとや、悪しきをいさめよ友と友人と人
 九つとや、いつはりいはぬが子供らの
 十とや、學びのはじめぞ慎めよ、いましめよ。
 昔を考へ今を知り
 學びの光を身にそへよ身につけよ。
 難義をする人見るときは
 力のかぎりいたはれよあはれめよ。
 病は口より入るといふ。
 飲食物氣を附けよ心せよ。
 心はかならず高くもて
 たとひ身分はひくゝとも軽くとも。
 遠き祖先のをしへをも
 守りてつくせ家のため國のため。

(尋常小學讀本卷六所載)

發行所

會社
株式
國定教科書共同販賣所

東京市日本橋區新右衛門町十六番地

印刷所

博文館印刷所

東京市小石川區久堅町百〇八番地

印刷者

水谷景長

東京市小石川區久堅町百〇八番地



發行者

代表者 大橋新太郎
會社 國定教科書共同販賣所
株式 東京市日本橋區新右衛門町十六番地

著作權者

文部省

明治四十五年三月三十日發行

明治四十五年三月廿七日印刷

定價金五錢

尋常小學唱歌第三學年用



1919.8.9

広島大学図書

0130449404

